

各 位

三重県病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予報第 5 号

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 気象のデータ	12
6. おしらせ	14

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネ(普通期)では、斑点米カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。周辺圃場の収穫状況に注意しながら、薬剤散布を行ってください。トビイロウンカの発生量は**平年並**と予想されます。ツマグロヨコバイの発生量は**少**と予想されま

す。
ダイズでは、ハスモンヨトウの発生量は**やや多**と予想されます。早期発見、早期防除に努めてください。吸実性カメムシ類の発生量は**平年並**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病、かいよう病(温州、中晩柑)、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。ミカンハダニの発生量は**やや少**と予想されま

す。
果樹共通では、カメムシ類の発生量は**やや少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。チャノホソガの発生時期は**早**、発生量は**やや少**と予想されます。クワシロカイガラムシの発生時期は**やや早**、発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。ほ場をよく観察し、早期発見、早期除去に努めて下さい。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**平年並**と予想されます。

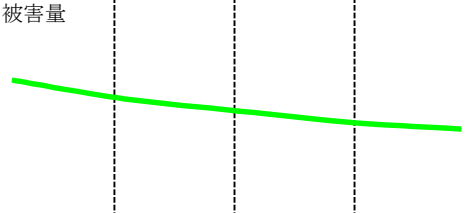
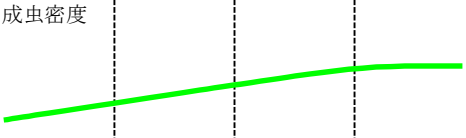
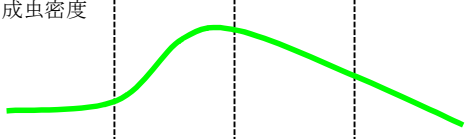
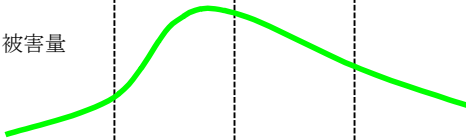
515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.h>

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	中	普通	被害量 				1) 周辺で収穫作業がある時は圃場への侵入に注意し、穂揃い期に薬剤散布を実施してください。 2) 防除後も侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7～10日後に2回目の防除をしてください。 3) 薬剤散布する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。
	ツマグロヨコバイ	—	少	小	低	成虫密度 				1) 発生量が少ないので、実害は少ないと思われます。
	トビイロウンカ	—	平年並	小	低	成虫密度 				1) 多飛来が確認されていないので、防除の必要はありません。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	中	普通	被害量 				1) 一部の圃場では、既に発生が確認されています。圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見、早期防除に努めてください。 2) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	平年並	中	普通	成虫密度		<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。 2) 薬剤散布は、9月中旬(開花 20 日後・莢伸長期)と 10月上旬(開花 40 日後・子実肥大中期)の 2 回散布が効果的です。 3) 1 回散布の場合は、9月下旬頃(開花 30 日後・子実肥大初期)に散布してください。 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。 5) エチプロロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。 		
カンキツ	黒点病	—	平年並	中	普通	発病密度		<ul style="list-style-type: none"> 1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、果実への感染防止に努めてください。 		
	かいよう病	—	温州平年並 中晩柑平年並	温州小 中晩柑中	温州低 中晩柑普通	発病密度		<ul style="list-style-type: none"> 1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) ミカンハモグリガの被害痕から菌が侵入しやすいため、高接樹や幼木はミカンハモグリガの防除も実施してください。 		
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通	ダニ密度		<ul style="list-style-type: none"> 1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1 葉当りの雌成虫寄生数が 0.5~1.0 頭程度を目安に防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用を避けてください。 		
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通	成虫密度		<ul style="list-style-type: none"> 1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判りにくくなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。 		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 2) 大雨、強風などの後に、急に圃場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等では、発生状況に十分に注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。 			
	炭疽病	—	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除時期は秋芽 1～2 葉開葉期です。 2) 三番茶期から秋番茶期にかけて増加します。 3) 降雨が続くと感染しやすくなります。降雨の前は予防剤で、降雨の後は治療剤で防除してください。 4) 治療剤 (EBI 剤など) は耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。 			
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息しています。 2) 寄生葉率が高い場合は丁寧に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。 			
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	早	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽開葉初期の孵化幼虫 (潜葉期、絵描き状態) を対象に防除してください。 2) 今年の発生時期は、平年より早くなっていますので注意してください。病害虫防除所のホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。 3) ハマキムシ類の間接暴露による薬剤抵抗性の発達を避けるため、ジアシルヒドラジン系 IGR 剤 (虫 18)、ジアミド剤 (虫 28) の使用回数は最大年 1 回までとしましょう。 			
チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽の先が褐変し、ひどいときは芽が硬化し発育停止します。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 秋芽の開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。 				

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通	成虫誘殺数				<ol style="list-style-type: none"> 1) 萌芽期に加害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 秋芽の萌芽期～開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。
	クワシロカイガラムシ	やや早	やや少	小	普通	孵化幼虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第4号(7月5日発表) 2) 有効積算温度による予測式では第3世代幼虫孵化最盛日はやや早(予測日は予報根拠を参照)と予想されます。 3) 防除適期は孵化最盛日から2～4日後頃です。 4) この時期はばらつきが大きくなるため圃場で幼虫の孵化を確認してから防除してください。 5) 天敵に影響の少ない薬剤を選択してください。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。 3) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 4) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼虫の発生は8～10月に多くなります。 2) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(8月第1半旬～第3半旬・松阪市)では、クモヘリカメムシ誘殺数は水田位置で6頭(平年6.0頭)と平年並、畑位置で79頭(平年76.0頭)と平年並、ミナミアオカメムシ誘殺数は水田位置で12頭(9年平均8.8頭)とやや多の傾向、畑位置で74頭(平年28.6頭)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、斑点米カメムシ類の発生圃場率45.8%(平年43.5%)とやや多、すくい取り虫数0.9頭(平年1.8頭)と少(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 予察灯の誘殺数を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(7月第3半旬～8月第2半旬・松阪市)では、誘殺数は水田位置で3頭(平年3.4頭)とやや少、畑位置で855頭(平年2,545頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発生圃場率42.8%(平年37.2%)と多、払い落とし成幼虫数3.3頭(平年4.3頭)と少、すくい取り成幼虫数9.3頭(平年15.3頭)と少(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～少(概して少)(-)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は少と考えます。</p>
	トビイロウンカ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(5月第1半旬～8月第3半旬・松阪市)では、水田位置で3頭(平年0.2頭)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発生圃場率0%(平年0.1%)とやや少、払い落とし成虫数0頭(平年0.001頭)とやや少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～少(概して無)(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ(7月第2半旬～8月第1半旬)では、松阪市嬉野川北町で441頭(平年270.0頭)とやや多の傾向(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、葉食害度0(平年0.17)と少、1a当り白変か所数0か所(平年0.45か所)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、播種が遅れており発生量は無(±)</p> <p>考察: フェロモントラップの状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(7月第3半旬～8月第2半旬・松阪市)では、誘殺数はミナミアオカメムシ水田位置 21 頭(9年平均 7.9 頭)と多の傾向、畑位置 52 頭(平年 55.7 頭)と平年並、イチモンジカメムシ 37 頭(平年 44.8 頭)と平年並、ホソヘリカメムシ 4 頭(平年 39.6 頭)と少 (±) 2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、25 株当り寄生虫数 0 頭(平年 0.004 頭)とやや少 (—) 3) 水稻巡回調査圃場(8月第1週)では、ミナミアオカメムシ発生圃場率 0.8%(9年平均 1.8%)と少の傾向、すくい取り虫数 0.01 頭(9年平均 0.04 頭)と少の傾向 (—) 4) 一般圃場では、播種が遅れており発生量は、無～少(概して無) (±) <p>考察：予察灯の状況を重視して現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (±) 2) 県予察圃(8月上旬、無防除)では、果実発病率 100.0(平年 99.9)と平年並 (±) 3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、果実発病度 0.7(平年 4.1)と少 (—) 4) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並(概して平年並) (±) 5) 感染源となる枯枝の量は平年並 (±) <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (±) 2) 県予察圃(8月上旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率 15.9%(平年 2.8%)と多、発病果率 82.5%(平年 16.4%)と多 (+) 3) 巡回調査圃場(8月第1週)のうち、温州みかんでは春葉発病度 0.06(平年 0.04)とやや多、果実発病度 0.0(平年 0.006)と平年並に少 (±) 4) 巡回調査圃場(8月第1週)のうち、中晩柑では春葉発病度 2.5(平年 3.3)とやや少、果実発病度 1.5(平年 3.9)と平年並の傾向 (±) 5) 一般圃場では、発生量はやや少～やや多(概して平年並) (±) <p>考察：現状の発生量は、温州みかん、中晩柑類ともに平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃(8月上旬)では、100葉当り寄生頭数は慣行防除区で0.0頭(平年32.0頭)と少(—) 3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、春葉における寄生葉率1.2%(平年6.4%)と少、寄生虫数0.02頭/葉(平年0.3頭/葉)と少(—) 4) 一般圃場では、発生量はやや少(—) <p>考察：現在の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃黄色粘着トラップ(7月下旬)では、誘殺数1.0頭/日(平年7.1頭)と少(—) 3) 県予察圃(8月上旬、無防除)では、100果当り寄生虫数0.0頭(平年6.0頭)と少(—) 4) 巡回調査圃場(8月第1週)では、被害果率0.8%(平年1.0%)と平年並の傾向(±) 5) 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察：一般圃場の状況を重視して現在の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(+) 2) 予察灯(御浜町:7月下旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ30頭(平年3,393頭)と少、ツヤアオカメムシ1頭(平年18.7頭)と少(—) 3) 予察灯(松阪市:7月第3半旬~8月第2半旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ129頭(平年1,136.5頭)と少、ツヤアオカメムシ6頭(平年94.8頭)と少(—) 4) フェロモントラップ(7月第3週~8月第2週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で156.8頭(平年1,136.9頭)と少、中間地(津市白山町二本木)で87.0頭(平年2,013.3頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)で14.8頭(平年445.1頭)と少(—) 5) 一般圃場では、発生量は少(—) <p>考察：現在の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃では、二番茶期の病葉数0枚/m²(9年平均0.5枚/m²)と少の傾向(—) 3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発病葉数0.1枚/m²(平年1.3枚/m²)と少(—) 4) 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察：一般圃場の結果を重視して現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(8月上旬)では、寄生葉率1.0%(平年3.4%)と少、寄生頭数0.01頭/葉(平年0.08頭/葉)と少(—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、寄生葉率0.1%(平年1.2%)と少、寄生頭数0.001頭/葉(平年0.019頭/葉)と少(—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(—)</p> <p>考察: 現状の発生量は一般圃場の状況を重視してやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	早	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(±)</p> <p>2) 県予察圃では、第2世代成虫のフェロモントラップ誘殺ピークは7月第2半旬(平年7月第3.6半旬)と早(発生時期—)</p> <p>3) 県予察圃フェロモントラップ(7月第3半旬~8月第2半旬)では、誘殺数1,018頭(平年1,302.9頭)とやや少(—)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第1週)では、巻葉数0.61枚/m²(平年0.70枚/m²)と平年並(±)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少(—)</p> <p>考察: 発生時期は早、現状の発生量は県予察圃の状況を重視してやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(+)</p> <p>2) 県予察圃黄色粘着トラップ(7月第3半旬~8月第2半旬)では、捕殺数78.8頭(6年平均44.6頭)と多の傾向(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、叩き落とし虫数1.1頭(平年1.3頭)とやや少(—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(—)</p> <p>考察: 現状の発生量は巡回調査圃場、一般圃場の状況を重視してやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(+)</p> <p>2) 県予察圃黄色粘着トラップ(7月第3半旬~8月第2半旬)では、捕殺数722頭(6年平均916.2頭)とやや少の傾向(—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、叩き落とし虫数3.8頭(平年7.0頭)と少(—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(—)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	クワシロカイガラムシ	やや早	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(±)</p> <p>2) 有効積算温度による発生消長予測式では、亀山市における第3世代幼虫孵化最盛予測日は9月12日(平年9月15日)とやや早(発生時期-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、雄繭寄生株率2.9%(平年5.4%)と少、雌成虫寄生株率2.8%(平年7.5%)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(-)</p> <p>考察: 発生消長予測式から、予想発生時期はやや早と考えます。現状の発生量は一般圃場の状況を重視してやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週、育苗床)では、発病株率0%(平年0.6%)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、平年並~やや多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月15日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想(+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市:7月第4半旬~8月第3半旬)では、誘殺数は55頭(平年61.3頭)と平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、青ネギの被害株率0%(平年0.7%)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、無~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: フェロモントラップの誘殺状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1)「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

				平年値 ↓		
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2)「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (令和元年 8 月 15 日名古屋地方気象台発表)

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

太平洋高気圧に覆われやすく、向こう1か月の日照時間は、平年並か多い見込みです。

1 週目 8 月 17 日～ 23 日	高気圧に覆われて晴れる日もありますが、湿った空気の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日もあるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0 日・ 4.7 日
2 週目 8 月 24 日～ 30 日	太平洋高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	同 1.9 日・ 4.5 日
3～4 週目 8 月 31 日～ 9 月 13 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 4.5 日・ 8.2 日

東海地方週間天気予報 (令和元年 8 月 19 日 10 時 36 分名古屋地方気象台発表)

予報期間 8 月 20 日～ 8 月 26 日

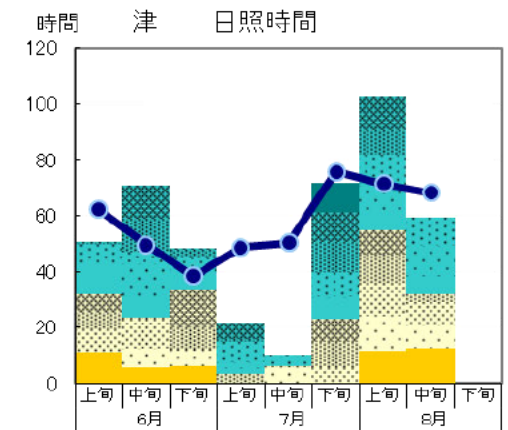
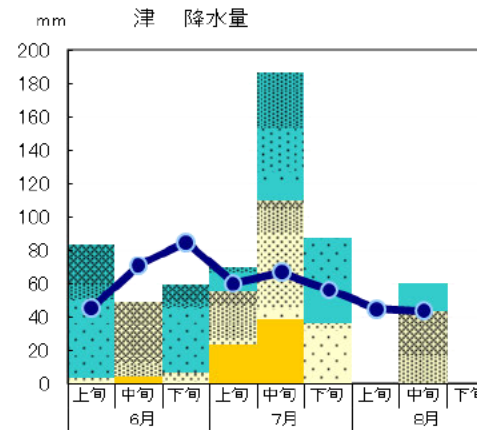
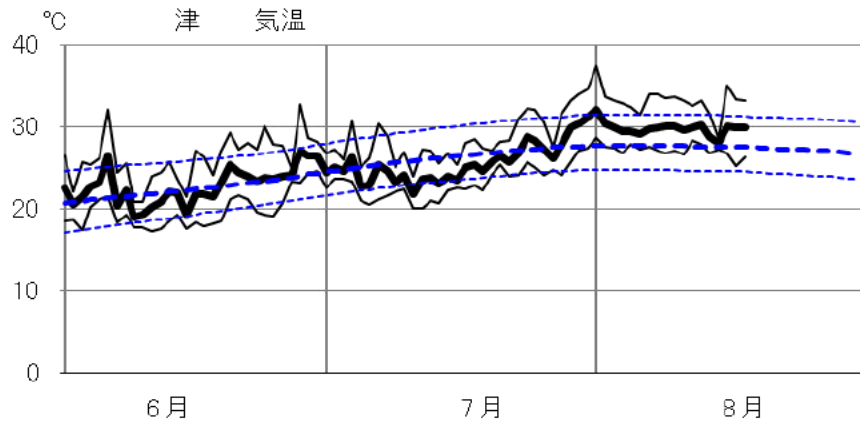
向こう一週間は、気圧の谷や湿った空気の影響で雨や曇りの日が多いでしょう。

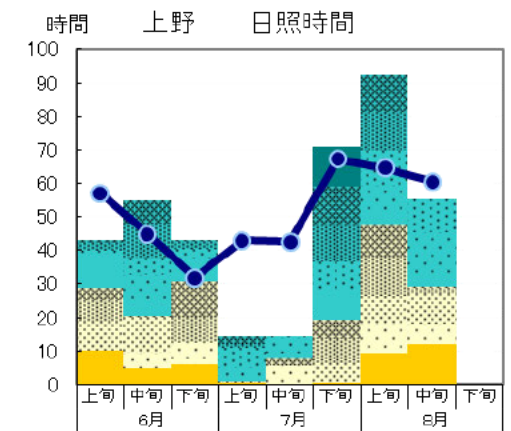
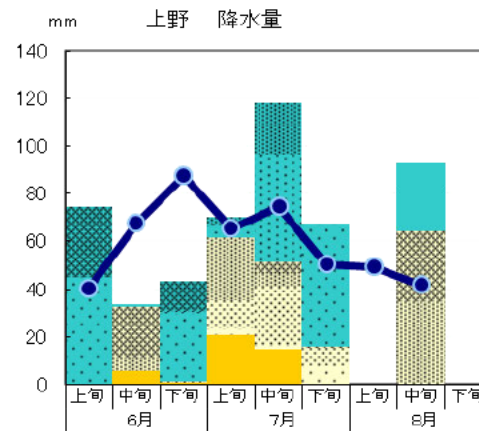
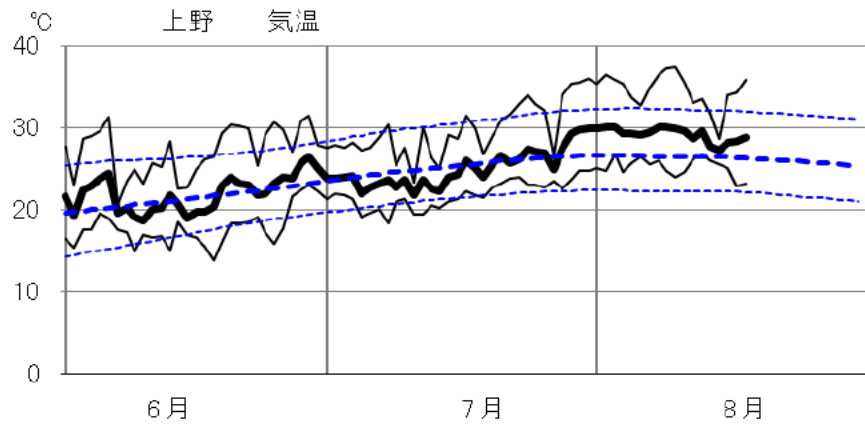
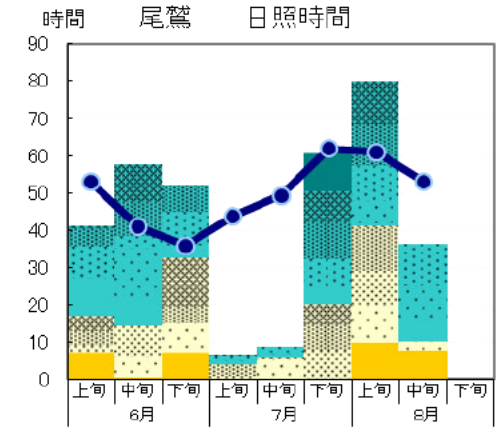
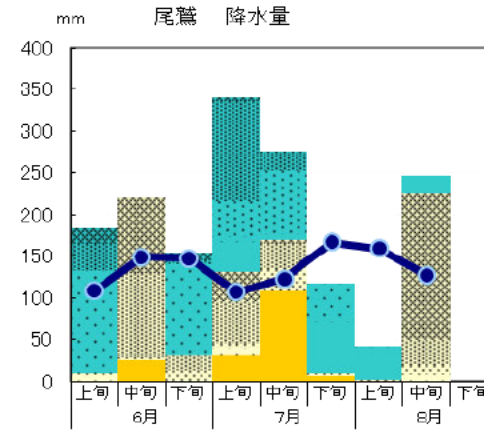
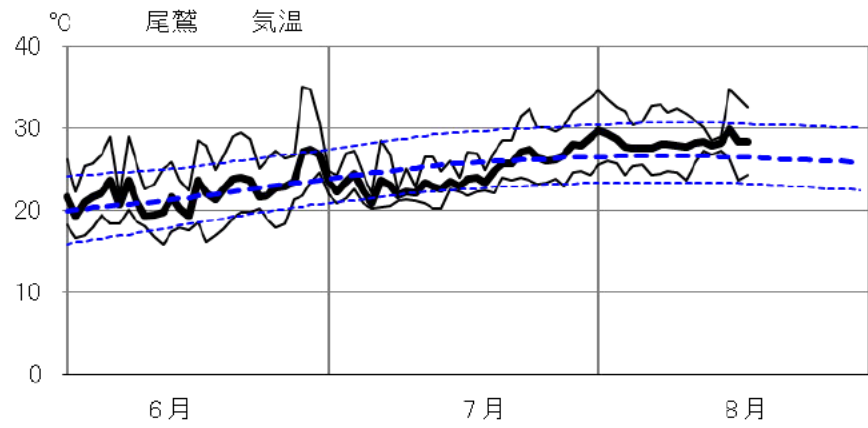
最高気温は、平年並か平年より低いですが、期間のはじめは平年より高い所もある見込みです。

最低気温は、平年並か平年より高いでしょう。

降水量は、平年より多い見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8 月 9 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - · · 平年最高
 - · · 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値
- 防除所

6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月25日(木)(済み)	第2回 5月23日(木)(済み)
第3回 6月20日(木)(済み)	第4回 7月19日(金)(済み)
第5回 8月22日(木)(今回)	第6回 10月24日(木)
第7回 3月19日(木)	

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000835764.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産園芸課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>